



第6回

### 文化と芸術に触れ合える

### このまちで心豊かに成長を

ピカピカの子どもの未来が育つまち宗像市。今回は、宗像ユリックスで4月2日から同21日に開催された宗像ゆかりの画家・中村研一特別展「大きなクスの木の下で」と、創造体験プログラム「木のねんどを使つて」を取材しました。

■問い合わせ先  
文化・スポーツ推進課

☎(36) 1540

絵画の世界に触れ合いながら  
大きなクスの木の下で

宗像市出身で、東京都小金井市に永住した日本洋画界の重鎮と称された中村研一。宗像ユリックス美術ギャラリーで、中村研一特別展「大きなクスの木の下で」が開催されました。この企画は昨



中村研一自画像に見入る小島さん親子

年、市と「文化交流の連携・協力に関する協定」を締結した小金井市の「中村研一記念小金井市立はげの森美術館」から油彩や水彩、陶器などを借りて実現しました。展示する絵画の選定



作品を子どもの目線の高さに展示された館内

は、市民がつくる美術展となりました。子どもたちが本物の芸術作品に触れる機会にと、展示位置を子どもの目線に合わせて低めに設定。また、展示品の説明にはふりがなを振りしました。特別展を見に来ている南郷小6年の小島みのりさんは「油彩・錦旗(きんぎ)は、南郷小学校の玄関に飾ってあったので、とても親しみがありません。いつも見ていた絵が、こうして展示されると改めてすごい絵なんだと感ずることができました」と話してくれました。

写真的顔と絵がそっくりで、本物みたいでした」と目を輝かせていました。知夏さんは、昨年度、市内小学生を対象に募集した「中村研一特別展開催記念企画」むなかたこども絵

なつた生家には、兄弟の幼少期のスケッチブック、日記帳、家人との書簡、「祖母トミ」像など、生家ならではの多くの収蔵品もあります。

### えがお満開の子どもたち

### 木のねんど細工にチャレンジ

8月には、今回展示できなかった研一の作品で第2回特別展が開催されます。夏休みに親子で出かけてみませんか。

中村研一特別展に併せて、子どもたちに、自らつくり表現する体験をという思いから、週末にはさまざまな講師を招いて全6回の創造体験プログラムを実施。4月13日には、クスの木スタッフが講師を務めた「木のねんどを使つて」が開かれました。

まずスタッフの下田弘紀(ひろみち)さんから木のねんどについて説明。参加した親子は真剣な面持ちで話を聞いていました。下田さんの「では作りましょう!」の合図と同時に、子どもたちの目の色が一斉に変わりました。赤や緑や黄色などカラフルな木のねんどを思い思いにこね始めました。



颯馬くんの力作「4匹の生き物」



お母さんの喜ぶ顔を想像して作る荘真くん(右端)

馬(そうま)くんは、4匹の生き物を丁寧に作りました。「この4匹は、僕の大切な宝物にします。部屋に飾るのが楽しみです」と力作を前に、とても満足気に話してくれました。

は、とても環境が良いですね」と話してくれました。河東小1年の福永結唯(ゆい)ちゃん「私の部屋に飾ります。今日はとても楽しかったです」と、自分の名前の「ゆい」を木のねんどで上手に形取ったネームプレートを見せてくれました。



真剣に作る結唯ちゃん(中央)と妹の紗代ちゃん(右端)

スタッフの下田さんは「実は昨晩、子どもたちへの説明の仕方について悩んでいました。しかし、木のねんどを扱い出すと、子どもたちから声を掛けてきてくれて、元気に楽しく作ることができて良かったです。今後、子どもたちが芸術の世界に接する機会をつくりたいです」と意気込みを語ってくれました。

市では、収集した個人情報を、収集の目的以外で利用することはありません。広報紙は、古紙が配合された紙を使用しています。

広報紙への意見・要望を右記に寄せてください。

発行：宗像市 住所：〒811-3492 福岡県宗像市東郷1-1-1  
編集：秘書政策課広報・報道担当 TEL：0940-36-1055 FAX：0940-37-1242  
クロワッサン メールアドレス：koho@city.munakata.fukuoka.jp  
印刷：株式会社 西日本新聞印刷

### 舞台裏

「好きな言葉は？」と聞かれたら「二期一会」と即答。語源は「茶会に臨む際は、その機会を一生に一度のものとして心掛けて、誠意を尽くす」という茶会の心得。取材でたくさんの人と出会う機会が増えました。広報紙を通して「知ってもらえる」「使ってもらえる」ことが取材のやりがい。取材担当ピカピカの一年生。初心を忘れず頑張ります。(な)

(み)